

真空管について

真空管は消耗品で寿命があります。また同時に真空管はトーンを決定づける重要なパーツですので、真空管を適切な状態で動作させることは必須と言えます。真空管の寿命の尽き方は様々で、ある日突然使えなくなることもあれば、徐々に終了していく場合もあり、その兆候をつかむことが大切です。定期的に真空管をチェックし、フィラメントの光っている色が通常のオレンジ色ではなく、暗めの赤（チェリー・レッド）に光っていないかを確認してください。そのような場合、真空管に必要な以上の電流が流れていて、寿命が尽きようとしている可能性があります。そのほか、次のような現象が起きていないかもチェックしてください：

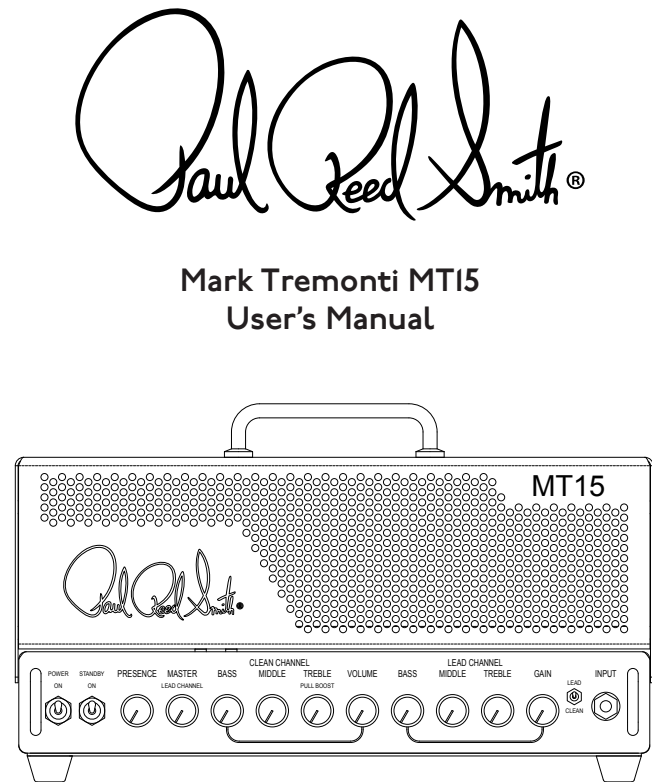
- 1) フィラメントが光らない
- 2) 真空管内部で小さな火花が飛んでいる

このような現象の場合、真空管に重大な問題が発生していて即刻手当てをする必要があります。また真空管は、アンプの「擬似的な」ノイズ源になることがよくあります。例えば「マイクロフォニック・チューブ」という現象では、真空管が振動することによってマイクのようにその振動を拾ってキーキーという甲高い音やガラガラというような雑音を発することがあります。そのような疑いが見られる場合は、アンプの電源を入れた状態で真空管を鉛筆などで軽く叩いてみて、そのような雑音を発している真空管を突き止めることができます。この時、ガラスを叩いた時と同じような「チリン」と鳴るものは正常ですが、マイクロフォニックになってしまった真空管ではかなりの音量の雑音が出ます。

プリアンプ部の真空管（プリ管）の交換時は特に調整する必要はありませんが、パワーアンプ部の真空管（パワー管）を交換した場合は適正に動作させるためにバイアス調整をする必要があります。パワー管の交換後は真空管の内部が「チェリー・レッド」に光っていないかどうかを最初にチェックしてください。また、現在手に入る真空管には色々な許容性のものがありますので、交換後はぜひバイアス調整をしてください。

パワー管のバイアスは30mV（±5mV）に調整してください。2本の真空管のバイアス値の差が5mV以内であれば、30mV付近で2本の平均を取ってください。2本の差が5mVを超えるとノイズや音質低下の原因になります。

注意！コンデンサ（キャパシタ）は、アンプ本体の電源がオフの場合や、電源コードを取り外していた場合、あるいはしばらく使用していなかった場合でも電気を貯めていることがありますので、十分にご注意ください。



PRSアンプのご使用について

重要：アンプをお使いになる前に、本製品に同梱の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

電源を入れる

1. 高品質のスピーカー・ケーブルでアンプのスピーカー・アウトとスピーカーやスピーカー・キャビネットが正しいインピーダンスで接続されていること確認します。接続には、必ずスピーカー・ケーブルをご使用ください。ギター・ケーブル（シールド）は使用しないでください。
2. アンプの電源コードを適正にアースされているコンセントに接続します。
3. アンプの過熱を防ぐため、アンプの背後は最低でも15cm以上空けて設置してください。アンプの背後には壁やその他の機器、その他熱を発するもの（別のアンプや暖房機器など）を設置しないでください。また、アンプの背後にカーテンなどの可燃物がないようにしてください。過熱防止のため、布などをアンプに被せないでください。飲み物や液体の入った容器などは、アンプの上に置かないでください（液体がこぼれてアンプ内部に入ると故障の原因になることがあります）。
4. 真空管を長持ちさせるために、電源を入れる前に〔STANDBY〕スイッチを「STANDBY」の位置にセットします。〔POWER〕スイッチを「ON」にし、真空管が暖まるまで約2分間放置します。この時、〔STANDBY〕スイッチはまだ「STANDBY」の位置のままにしておきます。初めて本機をお使いになる場合は、すべての真空管が適正に光っているかどうかを確認してください。
- 5.Master Volume(lead Channel)又はVolume(clean Channel)を0に設定し、あるいは〔STANDBY〕状態にしてからギターケーブルを接続してください。接続した後に、徐々にVolumeを上げ、適正な音量に調整してください。

 本機は大音量で動作させることが可能です。大音量で長時間使用すると、難聴など聴覚に異常が発生する恐れがありますので十分にご注意ください。

本機は、ユーザーご自身での整備、修理はできません。リペアの際は、必ず認定サービスマンにご相談ください。
本機の電源を切る場合のために、手の届きやすい場所のコンセントに電源コードを接続してください。
本機はCLASS I設計となっています。必ずアースされたコンセント（電源）をご使用ください。

MT15フロントパネル・コントロール

INPUT：1/4インチ・ギター・ケーブルを接続します。
CHANNEL SELECT： LEAD CHANNEL又はCLEAN CHANNELのどちらかを選択します。

LEAD CHANNEL

GAIN：プリアンプ段のボリューム、ディストーション、サチュレーションを調整します。
TREBLE：トーンの高音域を調節します。ノブを左に回すとメロウなトーンに、右へ回すと明るいトーンになります。
MIDDLE：トーンの中音域を調節します。ノブを右に回すと中音域が強調されたフルボディのトーンに、左へ回すと明瞭度の高い、いわゆる「ミッド・スクープ」トーンになります。
BASS：トーンの低音域を調節します。左に回すとタイトなトーン、右へ回すとディープなトーンになります（さらにゲインを上げるとよりディープなトーンになります）。
LEAD CHANNEL MASTER：LEAD CHANNEL全体の音量を調整します。GAINと合わせて調整することで、CLEAN CHANNELのと音量差を調整できます。

CLEAN CHANNEL

VOLUME：CLEAN CHANNELの音量とGAINを調節します。
TREBLE/PULL BOOST：トーンの高音域を調節します。ノブを左に回すとメロウなトーンに、右へ回すと明るいトーンになります。又、このノブを引いた状態にすると、GAINをブーストする事ができます。
MIDDLE/BASS：LEAD CHANNEL同様の機能となります。

MIDDLE/BASS：LEAD CHANNEL同様の機能となります。
PRESENCE：パワーアンプ内で動作し、最高音域を調整します。LEAD CHANNEL、CLEAN CHANNEL、共通の設定となります。

POWER、STANDBY：MT15はSTANDBY SWITCHを介さず電源のON/OFFができる設計となっています。便宜的にAMPをミュートする必要があるときにSTANDBY SWITCHを使用するようにしてください。

リアパネル・コントロール

電源コネクタ：電源コードは本機の付属のものを必ずご使用ください。プラグはコンセントの形状に合ったものをご使用ください。本機を移動させる際は必ず電源コードをコンセントから取り外してください。

ヒューズ：本機は交換可能なヒューズを複数使用しています。交換の際は必ず同一タイプ、同一容量のものをご使用ください。規格が異なるヒューズを使用すると、本機が致命的に破損したり、安全にご使用できなくなります。また、交換の際は電源コードを本機から必ず取り外してください。

電源ヒューズ：電源コネクタ内にあります。（スเปアが1本入っています）
B+ヒューズ：これらは内部基板上にあり、これらのヒューズの交換が必要な場合は修理対応となります。

バイアス・ジャック/ポット：これらのジャックでパワー管に流れる電流をミリボルト単位で計測します。1mV=1mAです。真空管を交換する際は、本マニュアル裏面のガイダンスをご参照ください。なお、バイアス調整や真空管の交換につきましては、認定サービスマンにご相談ください。バイアス調整には小型のマイナスインプンが必要となります。

スピーカー・ジャック：本機からコンボ・スピーカーやキャビネットに接続する際に使用します。使用できるジャックは3つあり、8Ω用2つ（パラレル出力）と、16Ω専用ジャックが1つあります。ご使用になるすべてのスピーカーでの総インピーダンス値に合ったジャックに接続してください。なお、16Ωジャックと8Ωジャックは同時に使用できません。16Ωのキャビネットを2台使用して8Ωにする場合は、8Ωのジャックに2台のスピーカーを接続します。本機でのインピーダンス設定に適していないスピーカーでのご使用になると、真空管ソケットからの放電やパワー管の焼き付き、アンプ全体の破損を引き起こす恐れがありますので十分にご注意ください。

HALF POWER SWITCH：このスイッチでパワーアンプの設定が、ペントード(FULL)回路からトライオード(HALF)回路へ変更となり、出力が約50%下げられます。このスイッチを切り替える際は、必ず本体の電源をOFFにしてから切り替えてください。

エフェクト・ループ：アンプ全体のサウンドにエフェクトをかけられるエフェクト・ループ・ジャックです（シリーズ接続）。1/4インチ楽器用ケーブルで〔SEND〕ジャックからエフェクターのインプットに接続し、エフェクターのアウトプットから本機の〔RETURN〕ジャックに接続します。センド/リターンのケーブルがハムノイズを拾うのを防ぐため、それぞれのケーブルを最初の数十センチは束ねた状態にし、それ以降はアンプの電源トランスや電源コードからなるべく離れた位置になるようにアレンジしてください。

フットスイッチ・コネクタ：付属のPRSフットスイッチ(FSIM)を接続し、CHANNEL切替が足元で可能となります。付属のもの以外のフットスイッチは、本機の故障の原因になることがありますので使用しないでください。

セイフティ・シンボル：以下のアイコンには次のような意味があります：

-  WARNING：危険の恐れあり。取扱説明書をお読みください。
-  DANGER：感電の危険あり。
-  WARNING：本機は大音量で動作させることが可能です。大音量で長時間使用すると、難聴など聴覚に異常が発生する恐れがありますので十分にご注意ください。

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほごりが付着している場合は、ほごりを拭き取る。
感電やショートของ恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。
- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。
- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。
- 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。
- 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。
電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。
- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。
付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- 不安定な場所に置かない。
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 本製品の隙間に指などを入れない。
お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

*すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

アンプをご使用になるための注意

- ・ 付属の電源コードを必ず使用してください。紛失した際は販売店にご相談ください。
 - ・ スピーカーを接続した状態で電源を入れてください。
 - ・ 外部スピーカーを使用する場合は、インピーダンスが合っていることをご確認ください。
 - ・ 正しい値のヒューズを必ず使用してください。
 - ・ シャーシを取り出さないでください。その必要が生じた場合は、専門店にご相談ください。
 - ・ ヒューズや真空管の交換を含むあらゆる修理、調整は専門家にご依頼ください。電源コードやプラグが損傷した場合、液体や異物が内部に入った場合、雨や極端な湿度にさらされた場合、誤った使い方をした場合、落下した場合などには修理が必要となります。
- * ギターの接続には、高品質のシールド・ケーブルを使用してください。ケーブルの長さは10メートル以内をお勧めします。
- * 外部スピーカーを使用する場合には、スピーカー専用のケーブルを使用してください。
- * ベンチグリル(通気口)を塞がないようにしてください。また、アンプ周辺の換気が確保できるようにしてください。

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様の要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路など)のように機能維持のために必要な部品の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったらまず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときはお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■修理時お願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この文書は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。
This Product is only suitable for sale in Japan.
Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03 (5355) 5056

●サービス・センター：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12
TEL: 03 (5355) 3537

輸入販売元: KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
WEB SITE: <http://www.korg.co.jp/KID/index.html>

KORG

本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

URL: <http://www.korg.co.jp/>

© 2002 KORG INC.

Printed in Japan